

# 全国ネット通信

2018 夏号 Vol.31  
平成30年7月発行

## 時代の変化に即応した 地域性豊かな温暖化対策の推進について

環境省 地球環境局地球温暖化対策課 国民生活対策室長 林 俊宏



本年4月に政府でとりまとめられた2016年度の温室効果ガス排出量（確報値）によれば、我が国の温室効果ガス排出量は、2013年度比で7.3%減少（前年度比で1.2%減少）しており、全体としては、様々な対策により一定の効果が出ていると言えます。しかしながら、家庭部門のCO<sub>2</sub>排出量は、若干ですが、前年度比0.6%増と増加している状況にあり、パリ協定の達成に向け楽観視できない状況となっています。

特に問題なのは、依然として、家庭部門のCO<sub>2</sub>排出量の増加率が世帯数の増加率よりも高いことと、2012年をピークとして減少傾向にあった排出量が、2016年度は増加に転じたことではないでしょうか。

我が国のCO<sub>2</sub>排出量に占める民生部門（家庭部門＋業務その他部門）のシェアも、1990年の22%から33%と増加しており、対策の必要性・重要性は益々高まっている状況にあり、CO<sub>2</sub>の増加要因をしっかりと分析した上で対策を講じていくことが必要です。

また、ライフスタイルの急激な変化とともにスマートフォン全盛となり、国民の多くが10年、20年前よりも、より電気を使うようになってきた気がしますし、宅配便の再配達の増加など、新たな問題も発生しています。さらには、少子高齢化による我が国の年齢別人口構成比率の変化も見逃せません。広報媒体についても、SNSなどの多様化により、従来の新聞・TV等のアプローチでは効果的な発信ができなくなってきている状況にもあります。

パリ協定の目標（2013年度比26%削減）達成のために求められている「民生部門での2013年度比4割削減」を確実なものとしていくためには、そうした状況の変化に対応した、適切なアプローチによる効果的な対策の実施と情報発信が求められています。

情報発信という観点で考えてみますと、温対法施行時の1999年に設置された地球温暖化防止活動推進センターは、今では地域センターが58にまで増え、地球温暖化防止活動推進員も6600人を超えるなど、まさに、

温暖化対策を「全国津々浦々」まできめ細かく展開するための体制は整備されてきたところであり、担うべく役割は益々大きくなってきていると思います。

特に、本年4月に策定公表された国の第5次環境基本計画では、自律・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域等と地域資源を補完し支え合う「地域循環共生圏」という考え方を新たに示したところです。これは、農山漁村も都市も活かす、我が国の地域の活力を最大限に発揮する考え方であり、地域こそ、環境・経済・社会の統合的向上モデルの実践の場となり得るのです。

また、本年6月には気候変動適応法が成立しましたが、南北に長い地理的特徴を有する我が国にとって、温暖化による影響も様々であり、地域ごとに、より適した対策の推進が求められています。

まさに、今後の温暖化対策の推進に当たり、益々重要になってくるのが「地域」であり、都道府県、政令指定都市、中核市、それらの自治体から指定を受ける地域の地球温暖化防止活動推進センターによる取組に期待するところは大きいものがあります。

こうした中、当室では、従来のセンター職員の研修事業等の実施に加え、温暖化による影響や国民運動「COOL CHOICE」で提唱する具体的対策を分かりやすく伝える「伝え手」を養成する「地球温暖化防止コミュニケーション事業」を実施しているところであり、推進員の皆様には、ぜひ、積極的に参加いただき、その輪を広げていきたいと考えています。また、2012年から実施している「低炭素杯」も、地域の取組のすそ野を広げる意味で非常に重要であり、当室としても効果的な連携を図っていききたいと考えています。

加えて、ライフスタイルも大きく変わり、より便利に高負荷になり、情報の受け方も変化する中で、どのようなアプローチによる対策が最も有効なのか、地域循環共生圏的な考え方も踏まえながら、皆様方とともに考え、対策を前に進めて行きたいと考えておりますので、引き続きご尽力とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 平成30年度全国ネット事業計画

平成30年度の事業計画が、本年3月に理事会で承認され、4月よりそれぞれの事業がスタートいたしました。

今年度は、SDGs、パリ協定採択後に初めて策定される国の第五次環境基本計画が閣議決定され、新たに「地域循環共生圏」という考え方が提唱されています。地域資源を活用した持続可能な地域づくりが求められる中、当法人は全国58の地域地球温暖化防止活動推進センター（以下「地域センター」という。）とともに構築してきたネットワーク、培ったスキルやノウハウを最大限に活用して、低炭素社会実現のために民生分野の地球温暖化対策の推進を図ることを基本方針としています。

計画の主な柱は、下記の①～⑥としており、特に③うちエコ診断事業は、制度の自立自走を目指した制度のあり方を見直し、地域や自治体、各種業界との連携を推進すると同時に必要なツールや体制の整備を進めます。

全国センター事業としては、地域における普及啓発活動を効果的に推進することを目的に下記①、②を実施し、これらの成果の取りまとめによって地域センター全体のプレゼンスの向上と、更なる事業展開を推進します。

また、自主事業としては、地域に根差した全国の活動をPRする場としての低炭素杯2019や環境大臣表彰の実施、これらの活動で得られる全国の活動とのネットワークを強化しつつ、気候変動教育のツールやプログラム開発などを通じて人材育成の連携を進めます。

## 事業計画の主な柱

- ①COOL CHOICE国民運動に係る目標達成に向けた地域活動の活性化
- ②CO<sub>2</sub>削減効果の検証評価手法やPDCAモデルの確立による事業成果の見える化
- ③家庭エコ診断制度のあり方の検討と方策の推進
- ④効果的な普及啓発を進めるための戦略的な事業展開
- ⑤多様な主体による地域活動に対する支援機能の拡充強化
- ⑥全国地球温暖化防止活動推進センターとしての機能充実

地球温暖化の問題が極端で激しい気象の変化として生活の中で顕在化している中、環境・経済・社会の様々な課題の同時解決となるイノベーションが求められています。全国ネットとしても、組織力を活かした検討を進めてまいりますので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

## エコライフ・フェア2018にブース出展

エコライフ・フェア2018が6月2日・3日の2日間、代々木公園にて開催されました。全国ネットは、幼児・小学生とファミリー層向けに、巨大かるたを使った大会やペーパークラフト、ぬりえなどのプログラムの参加や体験を通して、気候変動に興味関心を抱き、考えてもらうきっかけを提供することを目的にブース出展を行いました。

当日は天候にも恵まれ、多くの子どもたちやファミリーがブースを訪れました。「巨大かるた大会」のテーマは「観天望気」。観天望気とは、天気に関することわざのことです。「アマガエルが鳴くと雨」「夕焼けの次の日は晴れ」など、一度は聞いたことのあることわざから「飛行機雲のあとがすぐ消えたら晴れ、広がれば悪天候のきざし」といった耳慣れないものまで、子どもたちがかるたを楽しむ中で、大人も「知らなかった」とビックリ顔。かるた大会の勝者にはメダルがプレゼントされ、メダル欲しさに何度もブースを訪れてチャレンジ、リベンジする熱心な子ども達がたくさんいました。何度もチャレンジするうちに、観天望気の内容を覚え始めていた様子。他にも自ら読み札を読んだり、親子で「面白いね」「自由研究で深めてみよう」「知らなかった」など会話が生まれていました。このような体験を通して、子どもはもちろんのこと、大人の方も自然の変化に目を向け、日本人が培ってきた自然を愛でる洞察力を今一度、再認識するきっかけになれば良いと思います。

当日はとかしきなおみ環境副大臣にも当ブースを視察していただき、子ども達が参加体験する様子を見ていただきました。



巨大「観天望気かるた」大会に挑戦！



とかしき環境副大臣による視察の様子



かるた大会で勝者メダルをゲット！



ブース内の様子



エコカーのペーパークラフトに挑戦





# 今年もやります！低炭素杯2019

開催日：2019年2月8日（金）

会場：カルッツかわさき  
(神奈川県川崎市川崎区富士見1-1-4)

「低炭素杯」は、多種多様な団体（学校・企業・自治体・NPO等）が、日々活動されている地球温暖化防止につながる取組を募集し、最終選考で大会の舞台から自身の取組を発表することによって、ノウハウや情報を互いに共有し、さらなる活動に向けて連携や意欲を創出する「場」となることを目指し、2011年から開催している大会です。

9回目を迎える「低炭素杯2019」では、会場を「カルッツかわさき（川崎市）」へ移し、第11回川崎国際環境技術展とコラボ開催することとなりました。そのため、低炭素杯へも、多くの来場者が見込まれます。

ぜひ、その「低炭素杯2019」の舞台で、自身の活動を発表しませんか？  
みなさまからのご応募を心よりお待ちしております。

低炭素杯出場を目指す

エントリー  
募集開始！

～9/10（月）  
15時〆切



低炭素杯 エントリー募集

検索



力を合わせて間伐材を山から運ぶ！

## 低炭素杯2019最新情報

今年度の環境大臣賞トロフィーは、セブン-イレブン記念財団・高尾の森自然学校の桜の間伐材を使って制作します。制作者は毎年、低炭素杯ではおなじみとなっている造形家の齊藤公太郎さんです。

7月1日（日）に齊藤公太郎さん指導のもと、「トロフィー材の製材とカッティングボード作りワークショップ」を開催しました。

2メートル級の桜の丸太を、参加者全員で山からロープで引きずり下ろしました。ものすごい重い丸太をアナログな方法で引っ張るため、参加者は汗を流しながら必死でロープを握りしめていました。

その後は丸太をチェーンソーで製材し、トロフィーの元となる材を作りだしました。午後は同じ材を使ってカッティングボードをつくり、1日で盛りだくさんの内容に、参加者の皆さんも初めての体験でとても満足いただけたようです。

さて、今年度の環境大臣賞トロフィーはどんな形になるのでしょうか？  
乞うご期待！

## 読み終わった本やDVDなど、ご自宅・職場に眠っていませんか…？



低炭素杯では本やDVDなど使い終わったものをリサイクル換金して寄付できる、「古本募金（ぎしゃぼん）」を実施しています。



手順は  
とても  
簡単です！

低炭素杯 きしゃぼん

検索

- ①本やDVD等を集めて、箱詰めします。  
書き損じハガキや使わなかった年賀状、未使用テレホンカードもOK！
- ② 低炭素杯 きしゃぼん と検索し、ヒットした専用サイトへ。  
必要情報を入力して集荷を申し込みます。
- ③指定した集荷日に宅配業者が集荷に来たら、箱詰めした古本一式を渡して完了です！（宅配伝票の用意も不必要です。）

古本等を通じてご寄付いただいた寄付金は、  
ファイナリストの参加費用や会場費等の運営資金として大切に使用させていただきます。

皆様からの「古本募金」お待ちしております！

※古本募金には、換金対象のものとそうでないものがあります。詳しくは上記専用サイトをご確認ください。

# 第13回社員総会（平成30年度定時社員総会）報告

平成30年6月22日(金)午後1時30分から、TKP御茶ノ水カンファレンスセンターにおいて、正会員43団体の参加を得て、第13回社員総会を開催しました。冒頭に、当法人理事長 長谷川 公一の挨拶、次に、ご来賓として環境省 地球環境局 地球温暖化対策課長 松澤 裕様よりご挨拶をいただきました。その中で、「温対法に定める全国センターとしての機能強化を期待するとともに、会員各位のネットワークを大切に、円滑な法人運営をおこなっていただくことで相互に向上していただきたい。」とのお話を賜りました。

その後、議事に入り、第1号議案の平成29年度事業報告から第7号議案まで、活発な議論が行われ、一部修正意見等を含めて全ての議案が承認されました。

会議の最後に、全国ネットプレ戦略会議報告(論点整理)についての説明があり、全国ネット戦略会議の設置に向けた方向性が示されるとともに、会員各位に対する情報共有が図られるなど有意義な会議となりました。



## 平成30年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰応募受付中



地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人・団体を表彰することにより、受賞者における一層の取組の推進を促すとともに、国民・事業者等に対する地球温暖化対策の普及の促進を図ることを目的として実施している環境省主催の表彰制度「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」の募集が、今年度もスタートしています。

全国ネット通信2017冬号でもお伝えした通り、昨年度も地球温暖化防止活動推進員の皆さんをはじめとした地域で活躍する「地域の担い手」の方々がたくさん受賞されました。

地球温暖化防止活動環境大臣表彰は、個人でも団体でも応募できます。自薦他薦も問いません。また、今年度も表彰式・受賞者フォーラム、情報交流会において、受賞者の交流の場を展開する予定です！

長年、地域の地球温暖化防止に取り組まれている推進員さん、地域のグループの方々のアツいご応募をお待ちしております。



昨年度受賞された地域の担い手の方々

詳細は…

平成30年度環境大臣表彰

検索

応募締切: 8月1日(水)

エコアナウンサー

### 櫻田彩子のミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール  
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。  
テレビ朝日「じゅん散歩」レポーターほか、「低炭素杯」の司会など。



私も  
賛助会員  
です！

しばしば耳にする「タラノア対話」。調べてみると国連の気候変動枠組条約締約国会議COP23議長国フィジーの言葉で「包摂的、参加型、透明な対話」を意味するそうです。タラノア対話は5月のボン会議で初めて行われました。参加した方によると、タラノア対話は、各国の厳しい交渉とは別に設けられ、車座でお互いの顔を見ながら話すことで思いを共有でき、理解を深められたそうです。そして信頼が醸成され、安心感を持って交渉に臨めた、というのです。

私が様々な利害関係者の話を聞く機会に思うことは、お互いの溝を埋めるにはどうしたものかなあ、です。利害関係者同士がタラノア対話を行い、伝えたいことはしっかり、時に相手の立場になり、様々な可能性を排除せず、前を向けば、問題解決に光が見えるのではないのでしょうか。季節の花ビヨウヤナギの花言葉は「幸い」。宮沢賢治の語りかける「ほんとうの幸」を思います。



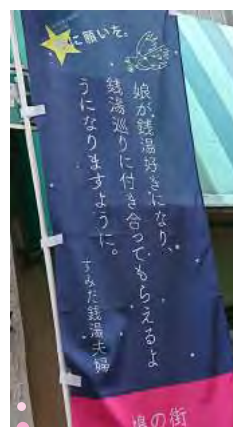
梅雨に咲くビヨウヤナギ

### 編集後記

第1子の育児休業を経て4月より復職しました家庭エコ診断グループの中垣です。保育園への送迎、通勤・仕事、食事の支度に洗濯、さらには1歳半になる娘の遊び相手毎日があっという間に過ぎていきます。

忙しい中で、家族でホットできるのは銭湯でのひととき。大きな湯船で身体を芯から温めることができ、給湯にかかる光熱費とエネルギーの節約にもなります。

娘も常連さんに相手にしてもらえ、湯船にも嫌がることなく入ってくれます！



昨年ですが、地元の商店街(鳩の街商店街)で七夕の願いを織にしてもらいました。

家庭エコ診断グループ 中垣 藍子

賛助会員  
募集中!

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの活動をサポートしてください！

年会費：個人会員1口 5,000円(1口以上)  
団体会員1口 20,000円(1口以上)

JNCCA  
Japan Network for Climate Change Actions

【編集・発行】

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3  
第一アマイビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100  
http://www.zenkoku-net.org/

